

周防畠遺跡群 道常遺跡Ⅱ

長野県佐久市長土呂道常遺跡Ⅱ発掘調査報告書

2013

佐久市教育委員会

例　　言

- 1 本書は角田毅による平成24年度宅地造成工事に伴う周防畠遺跡群道常遺跡Ⅱの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 角田 毅
- 3 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長 土屋 盛夫
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地
周防畠遺跡群 道常遺跡Ⅱ 佐久市長土呂字道常1246-1-3、1252-1-2
- 5 調査担当者 上原 学
- 6 本書の編集・執筆は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　　例

- 1 遺構の略称は以下のとおりである。
H - 壴穴住居址 Ta - 壴穴状遺構 D - 土坑 P - ピット
- 2 スクリーントーンの表示は以下のとおりである。
遺構
地山断面  烧土  床下 
- 3 鉢図の縮尺は以下のとおりである。
遺構 - 壴穴住居址・壴穴状遺構・土坑・ピット 1/80
遺物 - 土器・石器・鉄製品1/4、古鏡1/1
- 4 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
- 5 遺構の標高は、水糸高を標高とした。
- 6 調査グリッドは4×4mである。
- 7 遺物表中の〔〕は推定値、〈〉は残存値を表す。

目　　次

例言・凡例・目次

第I章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査の経緯	1
第2節 調査日誌	2
第3節 調査体制	2
第4節 発見された遺構と遺物	2

第II章 遺跡の環境

第1節 自然環境	2
第2節 周辺遺跡	3
第3節 基本層序	5

第III章 遺構と遺物

第1節 壴穴住居址 (H)	5
第2節 壴穴状遺構 (Ta)	6
第3節 土坑 (D)	8
第4節 ピット (P)	10
第5節 遺構外遺物	11

写真図版



長野県佐久市位置図

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

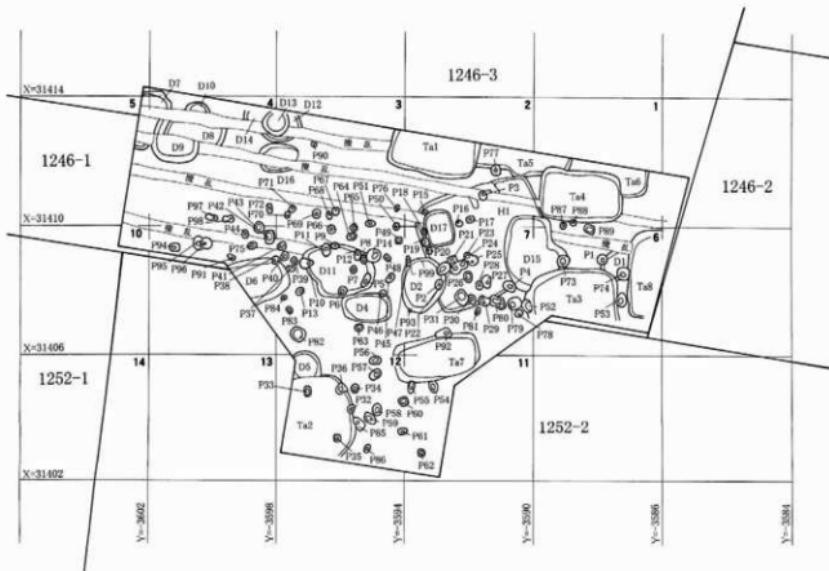
第1節 発掘調査の経緯

周防畠遺跡群は佐久市北部に位置し、佐久地域特有の浅間山の麓から放射状に延びる浸食谷に挟まれた田切地形の、南北方向に細長い台地上に展開する繩文時代から中世に至る複合遺跡である。開発地域は遺跡群南の西南西方向に傾斜する標高 709m 内外を測る台地上に位置する。周辺は、以前から遺跡の密集する地域として周知されており、近年では高速道路建設、区画整理事業、学校建設といった大規模調査によって弥生時代から平安時代を中心とする多くの遺構・遺物が発見されている。

今回、角田穀による宅地造成工事が行われることとなり、平成25年1月に進入道路部分の試掘調査を実施した。その結果、堅穴住居址・土坑等の遺構が発見された。これにより、開発主体者側と協議を重ね、進入道路部の発掘調査を佐久市教育委員会が主体となり実施する運びとなった。なお、宅地面は盛土であることから、今回の開発では調査対象外とした。



調査区位置図 (1:50,000)



遺構配置図 (1:150)

第2節 調査日誌

現場作業

平成24年度

平成25年1月17日 埋蔵文化財試掘調査

1月18日～ 文化財保護協議 進入道路部分に所在する遺構の発掘調査を実施することとし、宅地面については調査対象外とした。

1月31日 埋蔵文化財委託契約

2月1日～ 主体者側の重機による表土除去作業開始。機材準備・搬入。

2月4日～2月8日 調査員による発掘調査。検出作業・遺構掘り下げ・図面作成・写真撮影・機材撤収・整理。主体者側による基準杭設定作業。

室内整理作業

2月12日～3月7日 遺物洗浄・注記・接合・実測・写真撮影、図面修正・写真整理、図版作成・割付本作成。

3月4日 埋蔵文化財変更契約

3月7日 平成24年度埋蔵文化財発掘調査業務完了。

平成25年度

4月18日 埋蔵文化財委託契約

4月18日～ 校正作業、報告書刊行、図面・遺物整理作業。

第3節 調査体制

調査受託者

佐久市教育委員会 教育長 土屋盛夫

事務局

平成24年度

社会教育部長 伊藤明弘

文化財課長 吉澤隆

文化財調査係長 三石宗一

文化財調査係 須藤隆司 小林眞寿 羽毛田卓也 富沢一明 上原学

並木節子 神津一明 久保浩一郎

嘱託職員 林幸彦

平成25年度

社会教育部長 矢野光宏

文化財課長 三石宗一

文化財調査係長 比田井清美

文化財調査係 須藤隆司 小林眞寿 富沢一明 上原学

神津一明 久保浩一郎

嘱託職員 林幸彦

道常遺跡Ⅱ調査担当者

上原学

調査員 赤羽篤 浅沼勝男 岩松茂年 小幡弘子 小島真 木内修一 中澤登

羽毛田利明 比田井久美子 武者幸彦 横尾敏雄 依田好行 渡辺学

第4節 発見された遺構と遺物

遺構 壓穴住居址-1軒（古墳時代） 壓穴状遺構-8基（中世） 土坑-16基（中世）

ピット-99個（中世・近世？）

遺物 土師器（壺・碗・甕） 石器・石製品（すり石・砥石） 須恵器（壺・甕）

銅製品（古錢） 古代瓦（平瓦 1片・丸瓦 1片） 鉄製品（角釘等）

第II章 遺跡の環境

第1節 自然環境

佐久地域は、周辺を山地台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北には雄大な浅間山、南には蓼科山が存在する。東には群馬県との境を成す北関東山脈の北端が延び、西は御牧原・八

重原といった小高い台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。佐久地域における水系の代表は、南方の川上谷に源を発す千曲川で、北流しながら支流を集めつつ水量を増して佐久平に入る。その後野沢付近から流れを北西に変え、蓼科山麓の支流を集めた片貝川、浅間の麓に源を発す湯川、関東山地からの支流を集めた滑津川といった河川と合流し、蛇行しながら上田、長野方面に貫流する。この山地に囲まれ、水にも恵まれた盆地状の佐久平は、地質的に見ると大きく二分することができ、志賀川と滑津川が合流し、さらに千曲川と川筋を一つにする東西線を境として、河川の北側段丘上と南側では20m前後の北高差が認められる。この北部地域は北方の浅間山麓部の緩やかな台地で、浅間山の噴出物である火碎流軽石流と降下火山灰が厚く堆積している。この堆積物は雨水による浸食に弱く、長い年月の間に深く削り取られ、浅間山の麓から放射状に幾筋もの浸食谷（田切り）を形成している。

これに対し南部地域は千曲川の氾濫源沖積地と滑津川の谷口扇状地等で、河床礫層と沖積粘土層地帯が主となり地下水位も高く、地盤の安定した土地である。このため南部一帯は広く水田として利用されていた。今回調査を実施した、道常遺跡は北部地域の浸食谷（田切り）に挟まれた南北方向に細長い台地南端付近の、標高709m内外を測る南方向に向かう緩やかな傾斜地に位置する。

第2節 周辺遺跡

縄文時代－西方の台地端部近くに位置する西近津遺跡Ⅳから縄文後期の遺構・遺物が発見されている。土器は堀之内式の深鉢等で、比較的の残存率の高い好資料である。また、小型の土偶、石棒も出土している。

弥生時代－周辺には弥生時代中期後半から後期の集落が存在する。代表的な遺跡として周防畠遺跡A・B、大豆田遺跡I・II、大豆田遺跡IV、西近津遺跡Ⅶ等を挙げることができる。近年では大規模な調査が行われ、東に隣接する地域では、区画整理事業に伴い若宮遺跡IV、宮の前遺跡I・II等の発掘調査によって、中期後半（栗林期）から後期（箱清水期）の住居址が多数発見されている。南方では学校建設に伴う大豆田遺跡IVの発掘調査が行われ、弥生時代後期の住居址、溝跡、土器を多量に含む黒色の包含層などが発見されている。また、西方の西近津遺跡群内では、平成18年に県埋蔵文化財センターによって高速道路建設に伴う西近津遺跡の発掘調査が行われ、長辺18mを測る巨大な後期の住居址が発見され注目された。

古墳時代－古墳時代前期は弥生時代中期後半から急激に遺跡数が増加したにもかかわらず、佐久市内における遺跡の数が激減する。集落の規模も小規模なものが多いようである。本遺跡周辺では集落と呼べるような遺跡は今のところ確認されていない。遺跡数が増加し始めるのはカマドが導入され始める中期後半（5世紀後半）になってからである。この時期になると周辺地域に多くの遺跡が存在し、北の若宮遺跡、南近津遺跡、東方の若宮遺跡IV、宮の前遺跡I・II、南方の周防畠遺跡、大豆田遺跡I・II、西方の西近津遺跡VI・VII・VIII等から多くの遺構が発見されている。

奈良・平安時代－周防畠遺跡群内及び周辺の遺跡群に多くの遺跡が所在する。周防畠遺跡群内の代表的な遺跡に周防畠遺跡、若宮遺跡、道常遺跡、南近津遺跡、宮の前遺跡I・II、大豆田遺跡I・II等が認められる。西方の谷を隔てた台地上に所在する西近津遺跡群内で実施した遺跡から多くの遺構が発見されている。遺物については、本遺跡の周辺で、土器の表面に「大井」と墨書・刻書された土器が多数出土しており、周防畠遺跡群周辺地域が延喜式に記された佐久市十郡の一つである「大井郷」の比定地とする根拠の一つとなっている。しかし、周辺及び北部地域の遺跡では、数は少ないものの、遺物中に十郡の一つである「刑部」に関係する「刑部仁丸」「刑部」と墨書きされた土器が発見される事にも注意をはらいたい。現在、「刑部」は佐久市南部地域に比定地が存在することから、遺物を持った人の移動があった可能性も考えられる。また、茂田井地区と本遺跡周辺の長土呂地区は古代の瓦が、比較的まとまって出土する数少ない地域として以前から知られており、周防畠遺跡群内の台地上に瓦を葺いた古代寺院等の建造物が存在していたと推測されている。

中世・近世－この時代の代表的な遺跡は城館跡であり、佐久平一帯において、平城・山城と考えられる地域は多数存在する。本調査区周辺では東方の濁川対岸に長土呂館跡が所在する。館を構えた人物の断定はできていないが、佐久市志では鎌倉時代に北条氏に近い薩摩氏によって構築されたものと考えるのが妥当であろうと記している。遺構は、ほとんど現存しないが、東西120m、南北135m程度の範囲の外側に濠をめぐらせ、内側に15m程度の土塁があったと推定されている。この他、調査区に近接する区画内道路整備に伴い行われた道常遺跡の発掘調査では、堅穴状遺構、掘建柱建物址、木枠が残存した井戸状の土坑も確認されている。

No	遺跡名	所在地	遺跡番号	旧	築	弥	古	墾	中	查	備考
1	造塗道跡Ⅱ	長土呂字造塗	7	○	○	○	○	○	○	○	平24年度調査
2	西近津道跡Ⅰ	長土呂	29	○	○	○	○	○	○	○	平25年度調査
3	西近津道跡Ⅱ	長土呂字下原	29	○	○	○	○	○	○	○	平26年度調査
4	西近津道跡Ⅲ	長土呂	29	○	○	○	○	○	○	○	平27年度調査
5	西近津道跡Ⅳ	長土呂字三貴瀬	29	○	○	○	○	○	○	○	平28年度調査
6	關防塙道跡	長土呂字大見田塙	7	○	○	○	○	○	○	○	S 56年度調査
7	大豆田道跡Ⅰ	長土呂	7	○	○	○	○	○	○	○	平17年度調査
8	大豆田道跡Ⅱ	長土呂	7	○	○	○	○	○	○	○	平24年度調査
9	桑下道跡	長土呂	7	○	○	○	○	○	○	○	平25年度調査
10	中神田道跡	長土呂	7	○	○	○	○	○	○	○	平7年度調査
11	北の前道跡	長土呂字辻の前	7	○	○	○	○	○	○	○	平11年度調査
12	下野母加道跡	長土呂字下野母加	41	○	○	○	○	○	○	○	平9年度調査
13	直路道跡	長土呂字直路	41	○	○	○	○	○	○	○	平19年度調査
14	裏路道跡Ⅰ	長土呂字裏路野	41	○	○	○	○	○	○	○	平19年度調査
15	上魚路道跡Ⅱ	岩村田	41	○	○	○	○	○	○	○	平19年度調査
16	上直路道跡	岩村田	41	○	○	○	○	○	○	○	平19年度調査
17	上直路道跡Ⅲ	岩村田	41	○	○	○	○	○	○	○	平20年度調査
18	南上中里道跡Ⅰ	長土呂	8	○	○	○	○	○	○	○	平36年度調査
19	高石道跡Ⅰ	長土呂字下高石	8	○	○	○	○	○	○	○	平35年度調査
20	前防塙大道跡	長土呂	7	○	○	○	○	○	○	○	S 34年度調査
21	南下北里道跡Ⅰ	長土呂字下北里	7	○	○	○	○	○	○	○	H 21年度調査
22	東近津道跡Ⅰ	長土呂字造塗	6	○	○	○	○	○	○	○	H 15年度調査
23	西近津道跡	長土呂字西近津	29	○	○	○	○	○	○	○	S 96年度調査
24	西近津道跡Ⅱ	長土呂	29	○	○	○	○	○	○	○	H 15年半度調査
25	西近津道跡Ⅲ	長土呂	7	○	○	○	○	○	○	○	H 21年半度調査
26	彩宮道跡	長土呂	7	○	○	○	○	○	○	○	S 58半度調査
27	宮の上道跡	長土呂	7	○	○	○	○	○	○	○	H 22-23-24年半度調査
28	長土呂城跡	長土呂字城	40	○	○	○	○	○	○	○	

周辺遺跡表



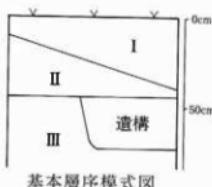
第3節 基本層序

遺跡は、浅間山の麓から放射状に延びる浸食谷に挟まれた、田切り地形の細長い台地末端近くに立地する。この付近は、現在の浅間山が形成される過程で噴出した軽石流が基盤となっており、この上面を現在の表土が覆っている。今回調査を実施した地域の基本層序は以下のとおりである。

I層は層厚20cm内外を測る耕作土で、しまり・粘性の少ない極暗褐色土である。

II層はI層からIII層への暗褐色漸位層である。

III層は浅間山の噴出物である第一軽石流のロームである。遺構確認は、III層上面で明確に判断できる。



基本層序模式図

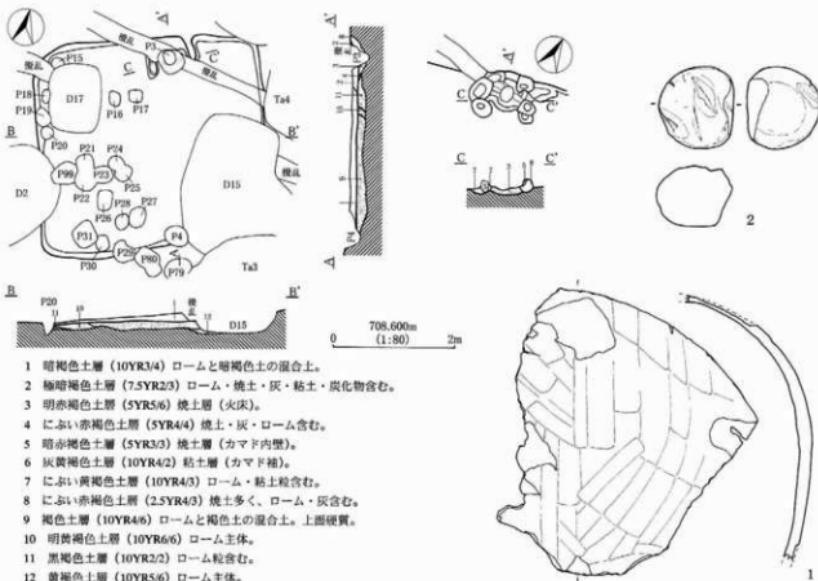
第III章 遺構と遺物

第1節 壓穴住居址 (H)

H 1号住居址

遺構は7グリッドに位置し、D2・15・17及び多数のピットに切られる。規模は南北3.4m、東西3.8m、検出面から床面までの深さは最深で10cmを測る。平面形態は方形である。床面は全体的に硬質の貼床が存在する。壁溝及び主柱穴と断定できるピットは確認できなかった。カマドは北壁中央に構築され、袖の一端と火床が残存していたが、部分的にピットに破壊されている。袖は粘土で構築され、西袖先端には石材が埋め込まれ、火床には径40cm、厚さ12cmの焼土が堆積していた。掘方は硬質な貼床直下に10~18cmの厚みでロームと褐色土の混合土が埋め込まれていた。

遺物は土師器壺、須恵器の壺・甕が出土した。全体の形状が残る遺物は無く、大半が破片資料である。



H 1号住居址遺構・遺物実測図

る。須恵器片には奈良・平安時代と思われるものが含まれるが、遺構周辺は擾乱が激しく、カマド及び床面直上では厚みのある土師器片が多数出土することから、須恵器片については周辺の擾乱による混入品と考え、本住居址の時期は古墳時代としたい。

番号	形状	基部	口径cm	底径cm	基高cm	調査・文様		残存率・部位	焼成	色調	備考
						外観ハラケツリ	内面ハラナデ				
1	土師器 甕	-	-	-	-	外観ハラケツリ	内面ハラナデ	剥離破片	良	外 明赤褐色 に赤い 褐色	
2	石器	器形	長5cm	6cm	厚さcm	重量g	色調		備考		
						97.02	黒褐色				
							表面すり面、赤痕あり				
							黒石器				

H 1号住居址遺物観測表

第2節 壓穴状遺構 (Ta)

壓穴状遺構は壓穴建物址・壓穴遺構とも呼ばれ、中世以降の遺跡から発見される代表的な遺構の一つである。形態は方形、長方形が多く規模は2m前後から時には10mを越す大型も確認されている。使途不明の掘り込みも多いが、基本的には建物址とされ、人々の住居、兵事の簡易住居、季節的住居、貯蔵庫、作業場、集会場などと考えられている。

本遺跡では多数の掘り込みが確認されているが、今回は土坑と区別するために長辺が2mを越す掘り込みを壓穴状遺構として取り扱った。

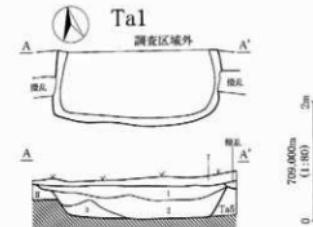
遺物は鉄製角釘・古銭・砾石・陶磁器・弥生土器・土師器・須恵器が出土している。周辺地域は弥生から中世の複合遺跡で、弥生から平安時代の住居址も多数存在していることから、鉄釘・陶磁器等が出土する遺構に含まれる弥生土器・土師器・須恵器については、遺構が埋まる際に混入した遺物と考えられる。

Ta1号壓穴状遺構

遺構は2グリッドに位置し、Ta5を切り、北側は調査区城外となる。調査規模は東西2.6m・南北1.1m、検出面から底面までの深さは50cmを測る。平面形態は調査範囲の状況から方形または長方形と考えられる。底面は地山のローム土となり、床状の硬質面等は認められなかった。遺物は須恵器・土師器片が数点出土した。時期は、主に鎌倉・室町時代に使用された輸入銭が周辺から出土するため中世とし、土師器・須恵器については埋土時の混入と考えられる。

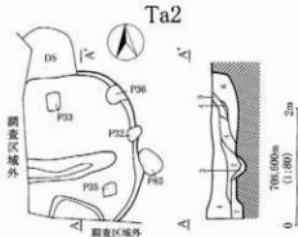
Ta2号壓穴状遺構

遺構は12グリッドに位置し、西及び南側の一部は調査区城外となる。調査規模は東西1.8m・南北2.2m、検出面から底面までの深さは40cmを測る。底面に幅36cm内外、深さ20cmの溝及び南壁際に土坑が存在し、硬質面が一部に存在した。溝については、土層断面では、底面から20cmほど高い位置から掘りこまれている状況を示していた。遺構が廢棄された後に何らかの利用がされた可能性も考えられる。また、底面に平面形態が方形のピット2個、壁際に3個が存在した。壁際のピットが伴うピットであるかは断定できない。遺物は、古銭の破片・須恵器・土師器片が出土した。時期は輸入銭の出土から中世とし、須恵器・土師器片は埋土時の混入と考えられる。



- I 暗褐色土層 (7.5YR2/3) 耕作上。
- II 黄褐色土層 (10YR5/8) ローム。
- III に赤い黄褐色土層 (10YR7/4) ローム。
- 1 暗褐色土層 (7.5YR3/4) ローム・軽石・炭化物含む。
- 2 黄褐色土層 (7.5YR4/4) ローム・軽石や多く、炭化物含む。
- 3 黄褐色土層 (7.5YR4/6) ロームと暗褐色土の混合土。
- 軽石・炭化物含む。

Ta1号压穴状遺構実測図

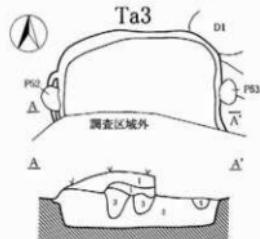


番号	器種	器形	残存高cm	残存幅cm	残存厚cm	重量g	色調	備考
1	鉢製品	古鉢	1.7	0.85	0.15	(0.499)	暗灰色	3/4欠損 --- 対

Ta2号竪穴状遺構 遺物観察表

Ta3号竪穴状遺構

遺構は6グリッドに位置し、南側は調査区域外となる。調査規模は東西2.5m、南北1.4m、検出から底面までの深さは55cmを測る。平面形態は、調査状況から方形又は長方形と考えられる。底面は地山のローム土となり、床状の硬質面等は認められなかった。東西の壁際にピットが存在した。遺物は須恵器・土器・陶磁器片が出土した。時期は陶磁器片の出土及び周辺遺構から輸入銭が出土していることから中世とし、土器・須恵器については埋土と考えられる。



- I 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) 耕作土。
1 暗褐色土層 (10YR4/6) 軽石・ローム・炭化物含む。しまりなし。
2 暗褐色土層 (10YR4/4) 軽石・ローム・炭化物含む。
3 墓褐色土層 (10YR3/4) 軽石・ローム・炭化物含む。
4 墓褐色土層 (10YR3/4) ロームブロック含む。しまりなし。



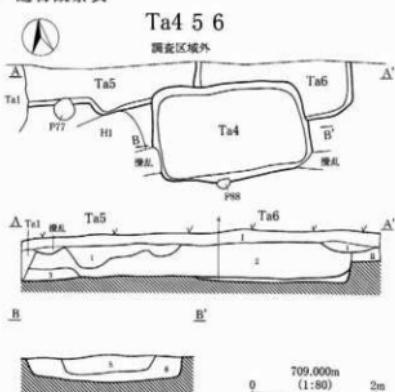
Ta3号竪穴状遺構 遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	色調	備考
1	鉢製品	角鉢	7.91	1.14	0.92	9.56	赤褐色	表面磨付有
2	鉢製品	角鉢	5.29	0.66	0.67	2.97	赤褐色	表面磨付有

Ta3号竪穴状遺構 遺物観察表

Ta4号竪穴状遺構

遺構は1グリッドに位置し、Ta5・6を切る。規模は東西2.4m、南北1.4m、検出面から底面までの深さは45cmを測る。平面形態は東西方向に長い長方形である。底面は地山のローム土となり、床状の硬質面等は認められなかった。時期は、周辺から輸入銭が出土していることから中世としたい。



Ta5号竪穴状遺構

遺構は2グリッドに位置し、Ta1・4に切られ、Ta6と切り合い関係にあるがはっきりとした新旧関係は確認できなかった。調査規模は南北0.6m、東西はTa6との新旧及び境界が平面・土層断面からも断定できなかったため、不明としたい。検出面から底面までの深さは25cmを測る。底面は地山のローム土となり、床状の硬質面等は認められなかった。時期は、周辺遺構から、輸入銭が出土していることから中世としたい。

Ta6号竪穴状遺構

遺構は1グリッドに位置し、Ta4に切られ、Ta5と切り合い関係にあるがはっきりとした新旧関係は確認できなかった。調査規模は南北1.1m、東西は底面の段差から2.4m内外と考えられる。検出面から底面までの深さは35cmを測る。底面は

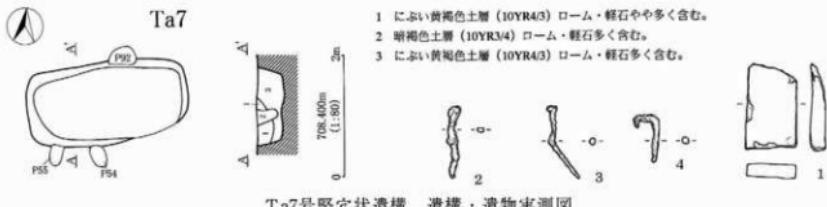
- I 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) 耕作土。
II 黄褐色土層 (10YR5/8) ローム。
1 暗褐色土層 (7.5YR4/4) ローム・軽石含む。
2 暗褐色土層 (7.5YR4/6) ローム・軽石・炭化物含む。
3 暗褐色土層 (10YR4/4) ローム・軽石多く含む。
4 黄褐色土層 (10YR5/6) ローム主体。
5 墓褐色土層 (10YR3/4) ローム・軽石・炭化物含む。
6 暗褐色土層 (10YR4/6) ローム・ロームブロック・軽石・炭化物含む。

Ta4・5・6号竪穴状遺構実測図

地山のローム土となり、床状の硬質面等は認められなかった。時期は周辺遺構から輸入銭が出土していることから中世としたい。

Ta7号堅穴状遺構

遺構は11グリッドに位置する。規模は東西2.4m、南北12m、検出面から底面までの深さは45cmを測る。底面は地山のローム土となり、床状の硬質面等は認められなかった。遺物は鉄製角釘・磁石、弥生土器・土師器・須恵器片が出土した。時期は形状及び角釘の出土、周辺から輸入銭が出土していることから中世とし、弥生土器・土師器・須恵器片については埋土時の混入と考えられる。



Ta7号堅穴状遺構 遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	色調	参考
1	石製品	磁石	6.98	4.1	1.25	59.11	灰白色	紙面4
2	器種	器形	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	色調	参考
2	鉄製品	角釘	<6.15>	0.98	0.81	5.65	赤褐色	表面錆付着 丸端一部欠損
3	鉄製品	角釘	7.02	0.8	0.75	3.97	赤褐色	表面錆付着 「ク」字彫りあり
4	鉄製品	角釘	5.35	0.89	1	5.5	赤褐色	表面錆付着 「次に曲がり」

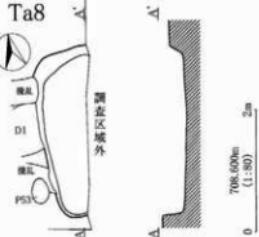
Ta7号堅穴状遺構 遺物観察表

Ta8号堅穴状遺構

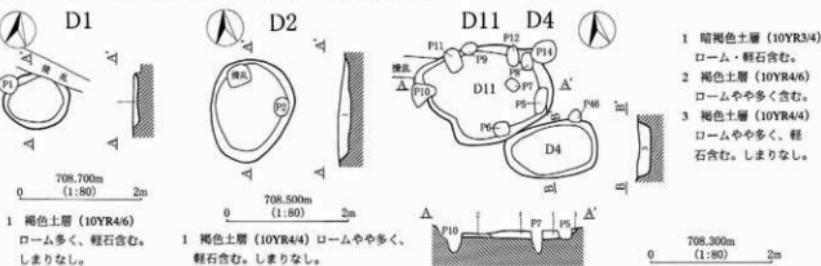
遺構は6グリッドに位置し、東側は調査区域外となる。調査規模は南北2.8m、東西は最大で80cm、検出面から底面までの深さは50cmを測る。底面は地山のローム土となり、床上の硬質面は認められなかった。遺物は出土しなかった。時期は、遺構の形状が周辺の陶磁器を出土する堅穴状遺構と同様であり、周辺遺構から輸入銭が出土していることから、中世としたい。

第3節 土坑（D）

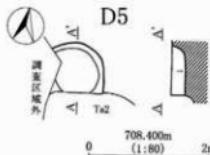
堅穴状遺構及びピットと区別するため、直径または1辺が30cm以上で2mに満たない掘り込みを土坑として取り扱った。形態は方形が多く、輸入銭が出土する遺構も含まれる。



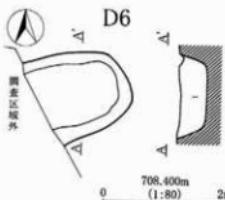
Ta8号堅穴状遺構実測図



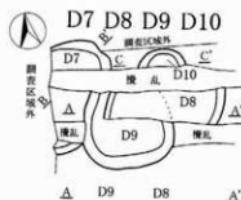
土坑実測図(1)



1 暗褐色土層 (10YR4/4) ローム多く、
軽石・炭化物含む。



1 暗褐色土層 (10YR4/4) ロームやや多く、
軽石含む。しまりなし。

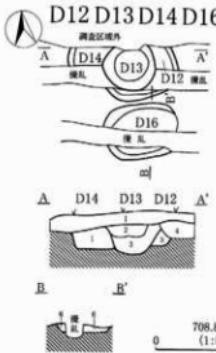


1 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム・
軽石・炭化物含む。

2 暗褐色土層 (7SYR3/3) ローム・
軽石・炭化物含む。

3 暗褐色土層 (7SYR4/4) ローム
やや多く、軽石・炭化物含む。

4 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム・
軽石やや多く含む。



I 極暗褐色土層 (7SYR2/3) 耕作土。

1 暗褐色土層 (10YR4/6) ロームと褐色土の混合土。
軽石含む。

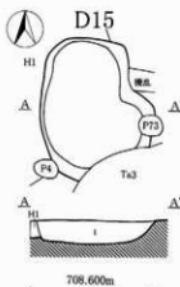
2 明黄褐色土層 (10YR6/6) ローム主体。

3 暗褐色土層 (10YR4/4) ローム・軽石含む。

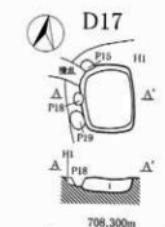
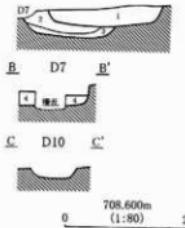
4 暗褐色土層 (10YR4/6) ローム多く、軽石含む。

5 暗褐色土層 (10YR4/6) ロームブロック・ローム
多く含む。

6 暗褐色土層 (10YR4/4) ロームやや多く、軽石含む。
しまりなし。

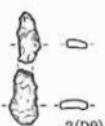
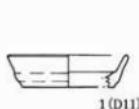


1 暗褐色土層 (10YR3/4)
ローム・軽石含む。しまりなし。



1 暗褐色土層 (10YR3/4)
ローム・軽石・炭化物含む。

土坑実測図 (2)



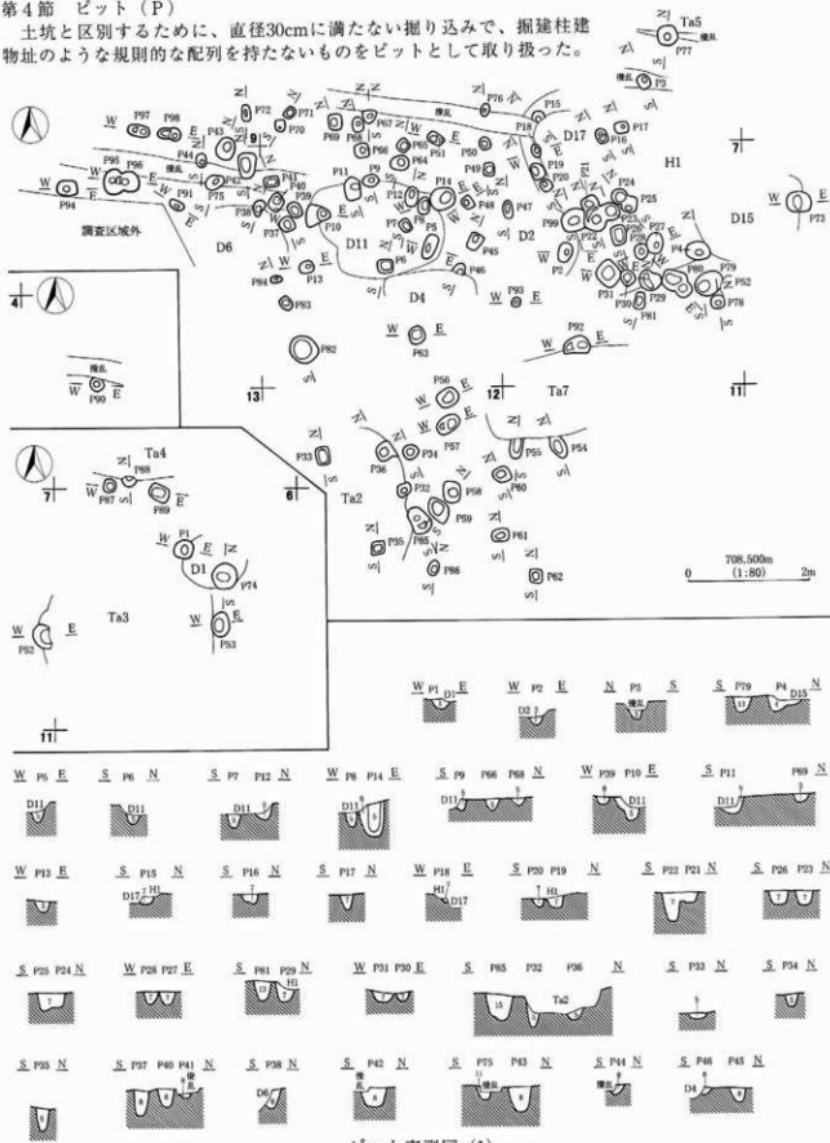
土坑遺物実測図

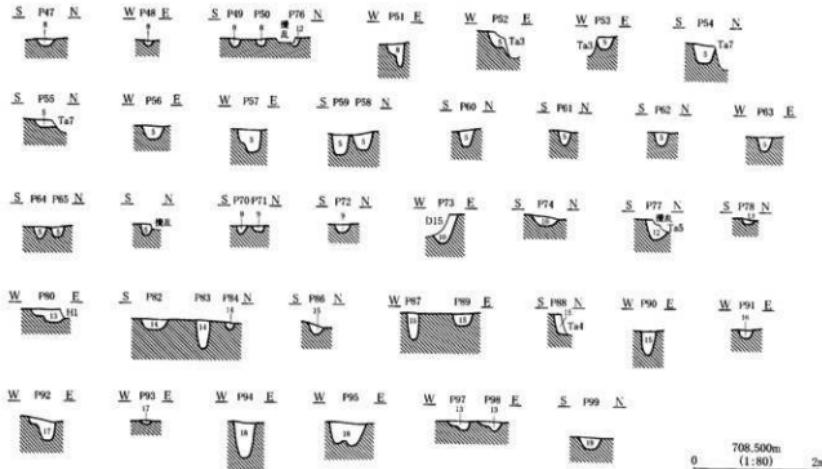
番号	部種	器 形	長さcm	幅cm	厚さcm	調査・文様	残存率・部位	後成	色調	備考
1(D11)	かわらけ	环	[10]	[7.5]	2.7	内外面ヨコナギ 両部斜板手切り	20	真	青白	青白い質感
2(D9)	器 形	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	色調		偏		
2(D9)	鉄製品	不明	(4.5)	(0.6)	(1.5)	赤褐色				
3(D7)	銅製品	不明	(4.5)	(0.6)	(1.5)	赤褐色	表面鎔付有 中央部欠損			
4(D11)	銅製品	古鏡	9.5	9.5	2.2	緑灰色	元純通寶 葉書 初鑄年 北宋 1086年			
4(D11)	銅製品	古鏡	9.5	9.5	2.45	緑灰色	元純通寶 葉書 初鑄年 621から845年の判別不明 一部欠損			

土坑遺物観察表

第4節 ピット(P)

土坑と区別するために、直径30cmに満たない掘り込みで、掘建柱建物址のような規則的な配列を持たないものをピットとして取り扱った。

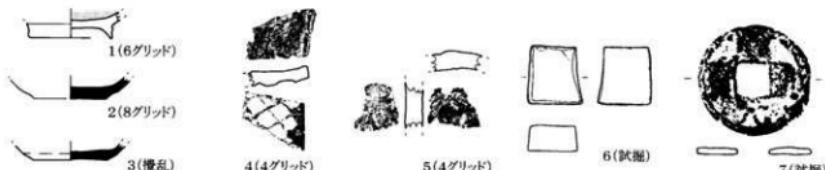




- 1 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム・軽石含む。しまりなし。
 2 暗褐色土層 (10YR3/3) ロームブロック含む。しまりなし。
 3 黒褐色土層 (10YR2/3) 焙土・炭化物・粘土含む。
 4 黑褐色土層 (10YR2/3) しまりなし。
 5 暗褐色土層 (10YR3/4) しまりなし。
 6 褐色土層 (10YR4/4) ローム多く含む。
 7 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・軽石・炭化物含む。
 8 暗褐色土層 (10YR3/4) 炭化物含む。しまりなし。
 9 にふい黄褐色土層 (10YR4/3) ローム多く含む。
 10 にふい黄褐色土層 (10YR4/3) ローム・軽石・ロームブロ
 ック含む。しまりなし。
 11 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・軽石含む。
 12 黑褐色土層 (10YR2/3) ローム・軽石含む。
 13 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・軽石含む。しまりなし。
 14 褐色土層 (10YR4/4) ローム多く、軽石含む。
 15 にふい黄褐色土層 (10YR4/3) ロームブロック・軽石多く含む。しまりなし。
 16 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム・軽石や多く含む。
 17 にふい黄褐色土層 (10YR4/3) ローム・軽石多く含む。
 18 暗褐色土層 (10YR3/4) ロームやや多く含む。しまりなし。
 19 にふい黄褐色土層 (10YR4/3) 黑褐色土とロームの混合土。しまりなし。

ピット実測図 (2)

第5節 遺構外遺物



遺構外遺物実測図

番号	器種	器形	L.H.(cm)	底径(cm)	壁厚(cm)	調査・文様	残存半・部材	残成	色調(外面)
(1)(2)	上部器	壺	-	69	(2)	底部(壺底)より後方約10cm付近 壺口付近底面付近 内底面無理	壺口付近 底面付近	良好	黒褐色(褐色)
(3)(4)	下部器	壺	-	(6)	(1.6)	内底面ヨコテラ 壺底付近底面付近	内底面付近	良好	黒褐色(褐色)
(5)(6)	下部器	壺	-	(6)	(1.3)	内底面ヨコテラ 壺底付近底面付近	内底面付近 底面付近	良好	黒褐色(褐色)
(7)	古瓦	平瓦	既切(15cm)	既切(15cm)	既切(15cm)	表面テラ・側面テラ	表面テラ 側面テラ	良好	黒褐色(褐色)
(8)	古瓦	筒瓦	既切(15cm)	既切(15cm)	既切(15cm)	表面テラ・側面テラ	表面テラ 側面テラ	良好	黒褐色(褐色)
(9)	古瓦	筒瓦	既切(15cm)	既切(15cm)	既切(15cm)	表面テラ・側面テラ	表面テラ 側面テラ	良好	黒褐色(褐色)
参考	漆器	漆器	長5cm	幅4cm	厚0.5cm	漆器	漆器	漆器	漆器
(10)	石製品	砥石	4.81	4.1	2.42	8341	灰白色	灰白色	灰白色
(11)	銅製品	古錢	2.52	1.05	0.26	2.76	綠銅色	圓周溝刻 刻字年號 621, 11845, 11960 の判別不可	綠銅色

遺構外遺物観察表



周防畠遺跡群 道常遺跡Ⅱ全景（北東から）



表土除去作業（西から）



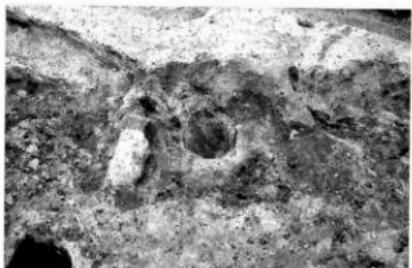
調査風景1（東から）



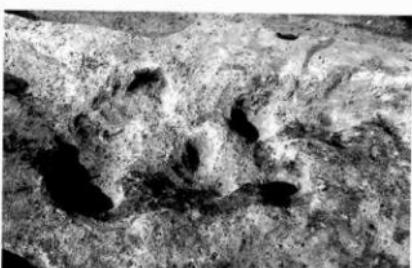
調査風景2（北東から）



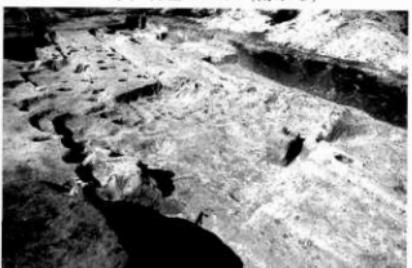
H1号住居址全景（南から）



H1号住居址カマド（南から）



H1号住居址カマド掘方（南から）



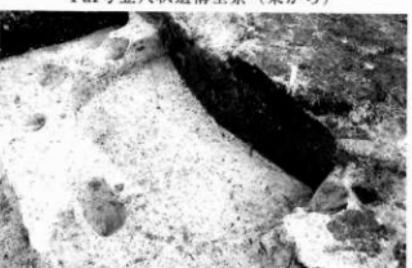
H1号住居址掘方（南東から）



Ta1号竪穴状遺構全景（東から）



Ta2号竪穴状遺構全景（東から）



Ta3号竪穴状遺構全景（北西から）



Ta4号竪穴状遺構全景（南西から）



Ta5号竪穴状遺構全景（東から）



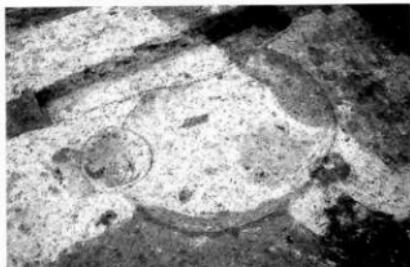
Ta6号竖穴状遺構全景（東から）



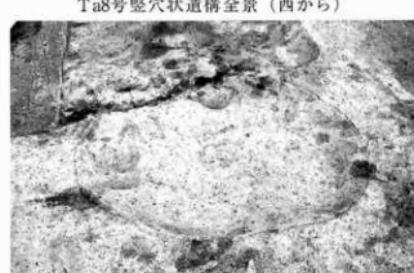
Ta7号竖穴状遺構全景（北から）



Ta8号竖穴状遺構全景（西から）



D1号土坑全景（南西から）



D2号上坑全景（西から）



D4号土坑全景（北から）



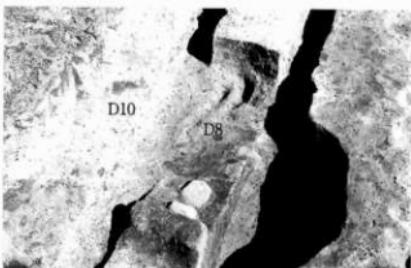
D5号土坑全景（東から）



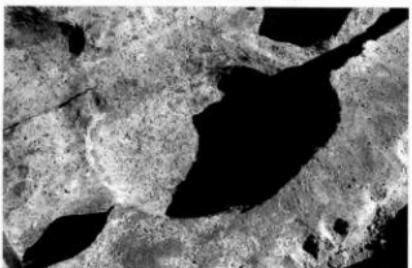
D6号土坑全景（西から）



D7号土坑全景（南から）



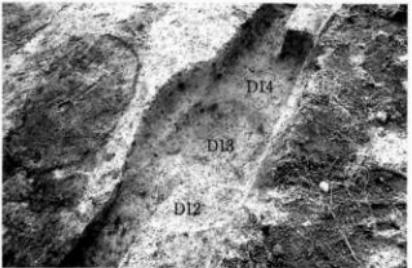
D8・10号土坑全景（西から）



D9号土坑全景（南西から）



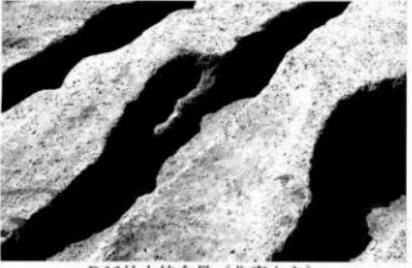
D11号土坑全景（西から）



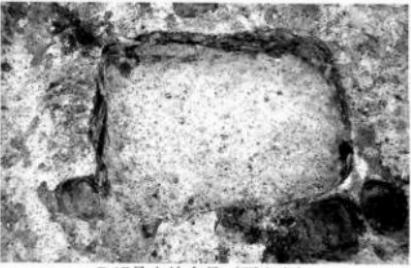
D12・13・14号土坑全景（北東から）



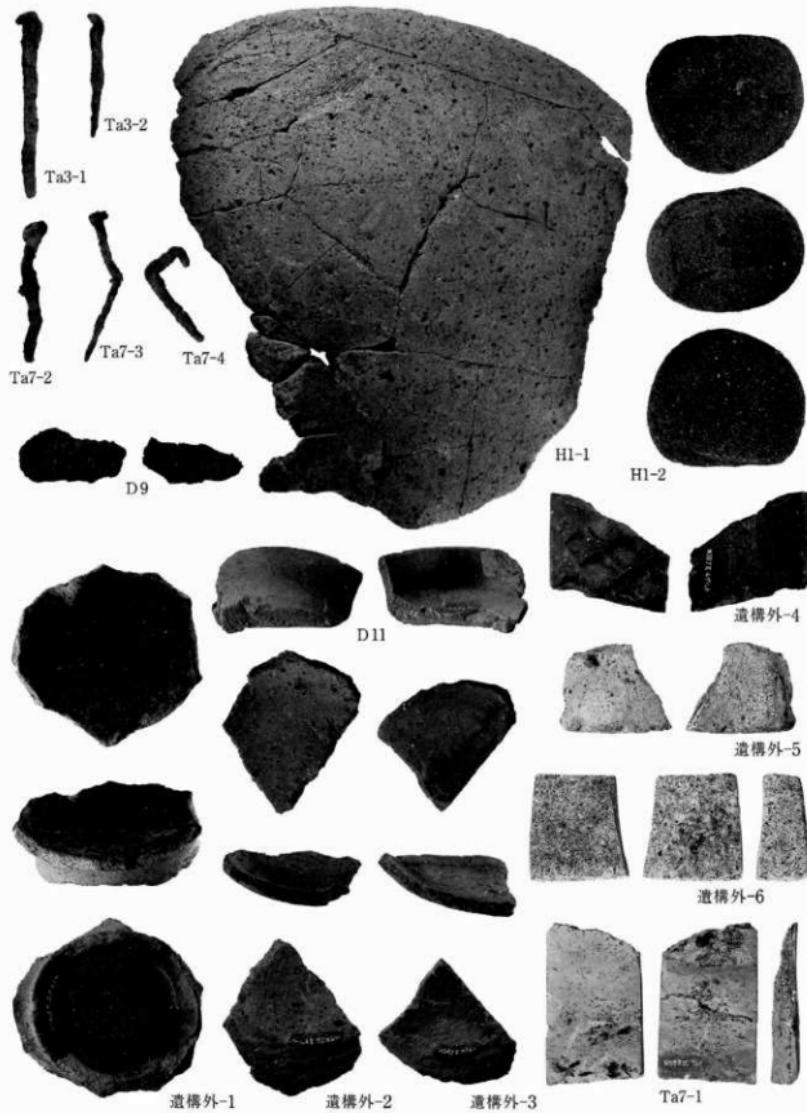
D15号土坑全景（南から）



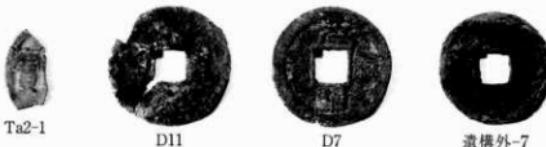
D16号土坑全景（北東から）



D17号土坑全景（西から）



出土遺物



古銭

ふりがな	すばうばたいせきぐん どうじょういせきに						
書名	周防端遺跡群 道常遺跡II						
副書名	-						
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第213集						
編著者名	上原 学						
編集機関	佐久市教育委員会文化財課						
所在地	長野県佐久市志賀5953 TEL 0267-68-7321 FAX 0267-68-7323						
発行年月日	平成25年8月						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積m ²	発掘原因
すばうばた いせきぐん どうじょう いせきに	さくし ながとろ あざ どうじょう	20217	7	36° 16' 58"	138° 27' 36" 20130131 ~ 20130208	12026	宅地造成 工事
周防端遺跡群 道常遺跡II	佐久市 長土呂 字道常 12461・3 12521・2						
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
周防端遺跡群 道常遺跡II	集落	古墳時代 中世	堅穴住居址 1(古墳)、 堅穴状遺構 8(中世)、 土坑 16(中世)、 ピット 99(中世・近世?)	土器器・石器・石製品・鉄製品 (角鉤)、銅製品(古銭)、古 代瓦(丸瓦・平瓦)、須恵器	古墳時代～中近世の遺構・ 遺物が発見された。		
要約	佐久地域特有の、浅間山麓から放射状に延びる、雨水等の浸食によって形成された田切り地形と称する細長い台地末端付近に展開する遺跡である。周辺では区画整理・道路改良・学校建設等に伴う発掘調査によって、弥生時代から中世までの遺構・遺物が多数発見されている。また、周辺地域は、以前から古代瓦が出土する地域として周知され、平・丸瓦に加え、川原寺の軒丸瓦が数点出土している。 今回の調査対象地からは、古墳時代の住居址 1軒、中近世と考えられる堅穴状遺構・土坑・ピットが発見され、特徴的な遺物として、検出段階に古代瓦 2片が出土した。						

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第213集

周防端遺跡群 道常遺跡II

平成25年（2013）8月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込 3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀 5953

TEL 0267-68-7321

印刷所 白田活版株式会社

〒384-0301 長野県佐久市白田 2016

TEL 0267-82-2109

